招致理念 Ver.8

２０１４年度全国大会招致会議

来れば愉快だ宇都宮

【宇都宮の生い立ちとかかわり】

私たちの愛する宇都宮市は、遠く日光連山を望み、清らかな鬼怒の流れにより豊かな自然環境が育まれ、二荒（ふたあら）の杜を中心に栄えてきたまちです。二荒山神社の門前町として栄えてきたこのまちは、江戸時代になると五街道のうち、奥州街道、日光街道と二つの街道が分岐する交通の要所として時代ともに発展しました。高度経済成長へと時代が変革していく中でも交通の要所としての機能は変わることなく、東北新幹線や東北自動車道の整備により、内陸型の工業団地としては国内最大規模ともいえる清原工業団地の整備など、交通の要所に加えて、産業の拠点としての性格も併せ持つこととなりました。

宇都宮ＪＣは地域の良さを自覚し、時代の変遷に伴う価値観の変化の中で地域をどのように発展させていくのかという課題に真摯に取り組み、時代ごとに新たな価値観を取り入れつつ、自分たちのまちを作り上げてきました。宇都宮ＪＣ設立１０周年を記念して創られた「ふるさと宮まつり」は２０１５年に第４０回を数え、市民のためのお祭りとなっております。当時から使われている「であいとふれあいの広場」というキーワードは現在でも色褪せることなく使われ続けており、この言葉は市民の交流の場を作り、お互いの「心」のふれあいを求め、市民意識の高揚を図るという目的で作られました。この「ふるさと宮まつり」の経験が、アジア最高位のジャパンカップサイクルロードレースの開催につながっており、域密着型自転車ロードレースチームの先駆者ともいえる「宇都宮ブリッツェン」の創設など、ロードバイクの文化を日本に芽吹かせた大きな要因は我々の運動の成果といえます。

【迫りくる現実】

「日本創成会議」が発表した２０４０年に自治体の過半数が消滅するという予測は、責任世代である我々にとって誇りに思う自分たちのまちを子や孫の世代に受け継ぐことができないという未来を含んでおります。その中で、人口減少や市民の高齢化が起こっている事実に対し、行政とともに市民が主体となって持続可能なまちづくりを推進することが求められております。その中で、宇都宮市は「１００年先も誇れるまちを、みんなで。」を合言葉として、市民とともに宇都宮の“いいところ”を発見し、形作る取組を「宇都宮プライド」と名づけ、市民一丸となって取り組んでおります。安定した財政基盤は子育て世代への支援や、高齢者へ行政サービスの拡充などに活用され、持続可能な成長に対する基盤が整っております。公共インフラの面においても、都市としての発展に伴い、関東平野という広大な平地を活かした住宅地の開発や商業施設の郊外化が進んでいる現状に対応し、地域の特性を活かした独自の新しいまちづくりの形である「ネットワーク型コンパクトシティ」を推進し、１００年先も見越したまちづくりを推進しております。

宇都宮ＪＣは、この「宇都宮プライド」に寄り添う運動を展開してきました。それは、自分たちのまちを誇りに思う、宇都宮のファンになる、そんな意識を持ってもらう運動です。自分たちのまちの未来は自分たちで切り拓く、そんな気概を持った仲間を増やしていく運動こそがこのまちの財産になり、後世に明るい未来を築くための礎となります。安定した市政のもとで、我々青年にしかできないことは、このまちの未来を語り、市民の意識を変えていくことに他なりません。全国大会は市民の琴線に触れ、このまちの未来を変える契機となります。

二荒の杜を中心に交通の要所として栄えてきたまちは時代の変遷とともに発展し、宇都宮ＪＣが先駆けて作り上げてきました。これから先宇都宮が目指すべき姿は１００年先までも持続可能な誇れるまちであります。

今日よりもさらに明るい社会を築くために。

我々は全国大会を通じて、このまちの素晴らしさやその姿を日本全国に発信し、新たな地域社会の礎を築きます。